

短 報

## 米国クリーブランド The Intergenerational School における世代間交流活動の実際と特徴

糸井 和佳<sup>1)</sup> 亀井 智子<sup>2)</sup> 田高 悦子<sup>3)</sup>

### The Characteristics of the Intergenerational Program at The Intergenerational School in Cleveland in USA

Waka ITOI, RN, PHN, MNS<sup>1)</sup> Tomoko KAMEI, RN, PHN, PhD<sup>2)</sup> Etsuko TADAKA, RN, PHN, PhD<sup>3)</sup>

#### 〔Abstract〕

This report aimed to describe the characteristics of the intergenerational program of The Intergenerational School (TIS) in Cleveland in USA. The intergenerational program of TIS had two type activities; community elders join school for reading mentoring and mathematics tutoring for children, and children visit elders to nursing home and assisted living, and these activities involve many elders with dementia.

The three characteristics of intergenerational program was described; a) good using multigenerational learning environment for school education, b) multigenerational people realize interaction effects from intergenerational relationships, c) become known in community. For this multigenerational learning environment, it is necessary to show school vision, volunteer education, instruction for children, partnership building with elderly institutions, management intergenerational activities. As a next step in Japan, it is necessary to clarify of children's needs and make the volunteer opportunities for talented elders by cooperation between health science, welfare, and education.

〔Key words〕 intergenerational relations, community elders, child rearing, interaction, community building

#### 〔要旨〕

本報告は、米国クリーブランド The Intergenerational School (TIS) における世代間交流活動の研修を通し、活動の特徴を記述し、日本における継続的な世代間交流活動への示唆を得ることを目的とした。TIS の活動では、地域の高齢者が児童に読書や算数を教えたり、地域のナーシングホームに児童が訪問する交流プログラムがあり、認知症を有する地域高齢者も多数参加していた。

世代間交流活動の特徴には、①多世代学習環境を小中学校教育に組み込む、②多世代が交流による効果を実感する、③コミュニティに活動が認知される、という特徴があり、この環境の実現のために、ビジョンの明示、ボランティア教育、子どもへのインストラクション、高齢者施設とのパートナーシップ構築、世代間交流活動のマネジメントが行われていた。子どものニーズの明確化や、退職後の経験豊かな高齢者の適性に見合う活躍の場を保健・医療・福祉・教育の協働により作り出すことが課題であると考えられた。

〔キーワードズ〕 世代間交流地域高齢者、子ども育成、相互作用、地域づくり

---

1) 聖路加看護大学大学院博士後期課程 老年看護学 St. Luke's College of Nursing Graduate school, Gerontological Nursing  
2) 聖路加看護大学 老年看護学 St. Luke's College of Nursing, Gerontological Nursing  
3) 横浜市立大学大学院医学研究科 地域看護学 Yokohama City University Graduate School of Medicine, Community Health Nursing

## I. はじめに

戦後の産業構造の変化は人口の都市化を加速し、三世帯世帯の減少とともに単独世帯や核家族の増加をもたらしている<sup>1)</sup>。こうした家族の変容は、地域におけるつながりの希薄化の要因となり、高齢者の孤立や子どもの人間関係の狭小化などの世代の分離による問題が起きているといわれている<sup>2)</sup>。これらに対応する方法論としての「世代間交流プログラム」は、高齢者と子どもが交流することで、高齢者のQOLの向上<sup>3)</sup>や子どもの高齢者理解<sup>4)</sup>や地域づくりの効果をもたらしているが、日本では単発的な交流も多い。高齢者と子どもの関係性の構築のためには、プログラムの継続が必要であると指摘されている<sup>5)</sup>。

米国オハイオ州クリーブランドにある The Intergenerational School は、地域に根ざしたチャータースクール（州の認可を受けた学費無料の小中学校）で、児童、児童の家族、地域高齢者などあらゆる世代の人間が世代間交流学習モデルにおいて現実のライフスキルと生涯学習をするユニークなカリキュラムを持ち、学校が地域社会をエンパワメントするモデルとなっている。本報告は、The Intergenerational School における世代間交流活動の実際とその特徴を記述し、日本における継続的

な世代間交流活動への示唆を得ることを目的とする。

## II. 研修概要

### 1. 研修内容

本研修の目的は、The Intergenerational School（以下、TIS とする）の世代間交流活動の実際とその特徴を理解することである。TIS に3週間滞在し、TIS ならびに協働施設で行われる多様な世代間交流プログラムに参加した（表1）。さらに① TIS の活動に関する文書の収集、② 世代間交流活動の観察、③ ボランティアへのインタビューを行った。

① TIS の活動に関する文書は、TIS のハンドブック、Annual report、ボランティアハンドブック、ボランティア登録用紙、ボランティアのタイムスケジュール表、施設訪問の年間スケジュール表、TIS の活動を紹介するビデオ、TIS に関する論文について収集した。② の世代間交流活動の観察では、世代間交流の内容、参加者、参加者の行動、活動におけるマネジメントをテーマに観察した。③ のボランティアへのインタビューでは、ボランティア6名に対し、ボランティアの動機とボランティアから得られることについて話を伺った。

表1 TIS における研修日程

月 日	研修機関、プログラム、交流人物
9月6日	The Intergenerational School (以下 TIS とする)、全教師と地域コーディネーターへ紹介、学校看護師の健康教育見学 Cathy Whitehouse, Eric McGarvey
9月7日	TIS、地域コーディネーターと計画立案、Meet the professional (医師) 見学、Eric McGarvey
9月8日	TIS、地域コーディネーターシャドーイング、読書メンター観察、Eric McGarvey
9月9日	TIS、読書メンター観察、Eric McGarvey
9月12日	TIS、読書メンター観察、打合せ、Eric McGarvey、Prof. Peter Whitehouse
9月13日	TIS、読書メンター観察、児童と一緒にランチをする、Eric McGarvey
9月14日	Fairhill Partner、Meet the professional(法律家)、慢性疾患マネジメントプログラム見学、Stacey Rokoff
9月15日	University Hospital/TIS/Case Western Reserve University (以下 CWRU とする)、ブレインヘルス会議、Dr. Peter Whitehouse 診察見学、TIS 地域プログラム立案会議、レジデントと医療社会学修士学生と会議、CWRU 看護学部副学長と会議、ナラティブ学者と会議、Prof. Peter Whitehouse
9月16日	Judson park/ 市民図書館 / Kindred Hospital、3つの世代間交流プログラム見学、Eric McGarvey
9月19日	TIS/Judson、地域ボランティアトレーニング見学、地域協働プログラムパートナーシップビルディング会議、Eric McGarvey
9月20日	動物園、児童、教師、家族ボランティアとのフィールドトリップ、Eric McGarvey
9月21日	TIS/Judson、地域コーディネーター、校長へのインタビュー、大学生ボランティアトレーニングの見学、Judson manner (高級アシステッドリビング) 見学、Eric McGarvey
9月22日	TIS、アートクラスへの参加観察、スクールカウンセラーインタビュー、算数チューターへの観察、Elizabeth Richmond
9月23日	TIS、ヒストリーメーカー見学、Eric McGarvey

## 2. TIS の概要

米国オハイオ州クリーブランド The Intergenerational School は、2011 年現在、5～14 歳の児童が 224 名在籍する。児童の属性は、性別は女兒 56%，人種はアフリカ系アメリカ人が 91%，多民族 3%，ヨーロッパ系アメリカ人 3%，アジア・インド人 2% である。経済的困難な家庭 65% で貧困層が多い<sup>6)</sup>。クラスは、プライマリー (kindergarten, 1st grade, 2nd grade からなる)、ジュニア (3rd grade, 4th grade, 5th grade)、シニア (6th grade, 7th grade, 8th grade) の 3 クラスに分かれ、3～4 年の幅のある年齢の児童 16 名が同じクラスで学ぶ。クラス担任のほか、体育、美術、音楽、テクノロジー & サイエンスの教員、コミュニティコーディネーター、スクールカウンセラー、言語聴覚士、看護師が勤務し、読書メンター 50 名、算数チューター 10 名、その他大学生、高校生がボランティアとして登録している。

## Ⅲ. TIS における世代間交流活動の実際と特徴

### 1. TIS の設立の趣旨とビジョン

論文<sup>7)</sup>ならびにハンドブック、Annual report によれば、TIS は、「成人期以降の学習ニーズならびに子どもの学習ニーズに答えるためには、現実のコミュニティに即した多世代学習環境が最適であり、異なる年齢の人々は共にお互いから学ぶ必要がある」<sup>6)～7)</sup>という教育理念のもと、神経内科医と教育者の協働により 2000 年に創設されたチャータースクールである。「あらゆる世代の学ぶ人間が民主社会に生涯貢献できるように新しい環境づくりができるよう、学校が地域社会を励まし活性化するモデルとなること」を学校のビジョンとし、地域高齢者によるメンターを小学校教育の重要な要素として位置付けている。

### 2. TIS における世代間交流活動の実際

#### 1) 学校に地域住民が来る世代間交流プログラム

##### (1) 読書メンター

地域高齢者がクラスの児童に読書を 1 対 1 で教えるプログラムである。廊下にソファーが用意されており、子どもとメンターが一緒に座り、30 分程度の読書をする (写真 1)。本や絵本は個人の学習進度に合わせて担任の先生が選書する。子どもが読み、分からない単語があるとメンターが読み方を教える。メンターは子どもに体を寄せ、暖かい眼差しで子どもの読書を見守り、上手に読めると“Very good reading!”と褒め、時には子どもに代わって流暢に読み、子どもが学習の基本である読書に興味をもてるようにサポートしていた。



写真 1 読書メンターの様子

##### (2) 算数チューター

シニアクラスターの生徒が算数の問題を解くのを地域高齢者や大学教授、大学生などが個別にサポートするプログラムである。生徒 2 名に対し算数チューター 1 名が対となり、解き方の分からない問題に出会うと生徒はその場で質問し、説明を聞くことができる。

##### (3) 学生 (大学生・高校生) ボランティア

5 大学 (Case Western Reserve University, Cleveland State University, John Carroll University, Cuyahoga Community College, Ursuline) ならびに 4 高校 (Saint Martin De Porres High School, University School, Ratner School, Breakthrough School) と提携し、大学生や高校生がカリキュラムの一環としてクラスのサポートにあたっている。学生の専攻は、看護学、社会学、歴史学、コミュニケーション学、教育学など多様であった。

##### (4) 一般ボランティア

主に児童・生徒の家族が行うボランティアである。クラスルームパートナー、図書館ボランティア、セーフティパトロール、ファミリーイベントプランニング、スクールアクティビティ、フィールドトリップへの同行などが含まれた。

#### 2) 学校が地域に出向く世代間交流プログラム

(1) ナーシングホーム、アシステッドリビング、病院への訪問 (Judson Smart Living, Montefiore, McGregor, Kindred Hospital)

ナーシングホーム、アシステッドリビング、慢性期病院に子どもが月 1 回訪問するプログラムである (写真 2)。子どもたちのほとんどは目的を理解しているように見え、積極的に交流をしていた。入居者は子どもたちの来訪に笑顔になり、子どもとお話しし、絵を描き、絵本の読み聞かせをすることで情動的に活性化していた。高齢者施設の入居者と児童が協働で外出する年間 6 回のプログラムもある。



写真2 ナーシングホームへの訪問

## (2) 大学図書館における地域ボランティアとの交流

大学図書館の一角で、大学生と地域住民からなるボランティアが、児童がアート作品を作ることをサポートする。児童は大学図書館という環境で大学生や地域住民とともにアートを楽しみ、地域住民は、児童の好奇心や創造性に触れながら彼らをサポートしていた。

## 3. TIS における世代間交流活動の特徴

TIS における世代間交流活動の特徴として、1) 多世代学習環境を小中学校教育に組み込む、2) 多世代が交流による効果を実感する、3) コミュニティに活動が認知されるが見出された。

### 1) 多世代学習環境を小中学校教育に組み込む

「すべての年齢層の学習者が社会に貢献できるような環境づくりと学校がコミュニティを励まし活性化するモデルとなる」という明確なビジョンのもと、「生涯学習者と活気ある市民の多世代コミュニティをつなげ、作り、導く」というミッションを達成すべく「学校に地域住民が来るプログラム」ならびに「学校が地域に出向くプログラム」の両者をカリキュラムに組み込んでいた。ビジョンやミッションは、Annual report、ホームページ、ボランティアハンドブックに明示されている。ボランティア教育では、学校のビジョンや雰囲気を知るためのビデオの視聴やハンドブックの明示、先輩メンターの見学、クラスへの紹介を行っていた。

ハンドブックにはメンタリングプログラムの目標である「子どもが自由に学び、間違いを恐れず、探究することが出来る雰囲気を作る」が示され、具体的に「学ぶことの楽しさを示す」「フレンドリーで安定感のあるマナーで接する」「子どもの態度が悪いときは、家庭を批判せず、よい行動のモデルを示す」「メンターと子どもの両方が楽しむことが大切」としていた。

すべての年齢層の住民には、学校に来ることが可能な対象から、ナーシングホームに居住する要介護状態の対象まで含まれていた。後者への訪問の事前準備として、子どもたちは目的や態度についてディスカッションを行

い、教員がファシリテートしていた。TIS の地域コーディネーターと教員、高齢者施設側のプランナーが協働で年間のプログラムを計画していた。交流を効果的にするための工夫として、お互いが相手に質問するポイントを書いた紙を用意し、質問の内容は名前、好きな色、動物、食べ物、お勤めの場所、心に残る人生のイベント等であった。コミュニティコーディネーターがボランティアのスケジュール管理やコミュニティパートナーとの調整などのマネジメントを担っていた。

### 2) 多世代が交流による効果を実感する

TIS のボランティアに対するインタビュー結果より、ボランティアを志向した理由には、「友達がメンターをしており、とても楽しいと聞いたから」「昔教師だった経験を活かしたい」「退職後、子どもに関わる何かがあったかった」「いずれ教える仕事につきたい」などが挙げられた。

ボランティアによる効果では「子どもと接することが楽しい」「毎日することがある」と、充実感や生活の質の向上の効果が得られていた。「認知症と診断され、毎日の刺激になるからと医師に勧められて始めたが、実際に自分の記憶によい影響があると思う」と認知面への効果を実感し、論文<sup>8)</sup>で認知症高齢者の QOL の向上効果も報告されている。

子どもへの効果では、TIS は児童の成績がオハイオ州のチャータースクールのなかで4年連続最優秀となっている。Annual report に寄せられた児童の感想によれば、「小さな子どもや高齢者と学ぶことで、人々への接し方や一人一人の人生が異なることを学んだ」「メンターは、まるで私が彼の子どものように接してくれて落ち着いた」があり、学校の成績の向上以外にも、社会的行動の学習、情緒的安定といった効果が得られていた。

### 3) コミュニティに活動が認知される

読書メンターと算数チューターを合わせ60名の地域高齢者が登録し、ボランティアが来ない曜日はない。ボランティアの友達が新しいボランティアとなるというように、口コミで広まっていた。また医療分野のつながりがあり、認知症を有する高齢者も医師から紹介されていた。TIS はホームページや Annual report などを通してわかりやすい形で学校のビジョンを明示し、オハイオ州における最優秀コミュニティスクールとして表彰されるという名誉な形で、広報効果を生み出しコミュニティに活動が認知されていた。

## IV. 日本における実践への示唆

本報告より、TIS の活動における3つの特徴、1) 多世代学習環境を小中学校教育に組み込む、2) 多世代が効果を実感する、3) コミュニティに活動が認知される、



が見出され、ここでの世代間交流は最適な学習環境として位置付けられていた。

この環境の実現のためには、ビジョンの明示、ボランティア教育、子どもへのインストラクション、高齢者施設とのパートナーシップ、世代間交流活動のマネジメントが不可欠と考えられた。アメリカでは貧富の差が激しく、TISの児童も65%が経済的に苦しい家庭環境であった。社会で成功していくための基本として学習への意欲を高め、生涯の学習者になる素地を作ることが重要である。子どもは、一人の大人から注意を注がれることで情動が安定し、高齢者の落ち着いた態度や勤勉さから学習への態度を学ぶ。さらに一人の人間として接してもらうことで、人への接し方を学び、社会の中で人間関係を作ることにつながると考えられる。Böstrom<sup>9)</sup>は、義務教育学校に地域の「おじいちゃん」と呼ばれるボランティアを起用したことが、児童と先生との関係、児童と児童の関係である学校内のソーシャルキャピタルの向上につながったと報告している。一方高齢者は、退職後の長い老年期における役割や人とのつながりが求められる。

日本においては学校におけるいじめが問題になっており、子どもが地域におけるさまざまな世代の人に見守られ、異なる価値観を学ぶことのできるプログラムやシステムづくりが必要であると考えられる。従来は無意図的にしていた世代間交流を現代でもつためには、地域における相手世代のパートナーが必要不可欠である。日本では、特別養護老人ホームと幼稚園・保育園との交流<sup>10)</sup>のほか、地域の保健師が住民組織と協働し、地域の子育て世代を見守る事業を実施している。それらを継続的にしていくためには、世代間交流活動の効果を客観的に示し自治体の理解を得ることや、保健医療福祉教育の協働が必要であると考えられる。

本報告は、1つの世代間交流学習モデルの事例であり、ボランティア文化の違いやニーズの違い、システムの違いがあるという限界がある。しかしながら本報告により明らかになった世代間交流プログラムの特徴は、日本におけるヘルスケアにおいても参考にできると考える。今後は子どものニーズを明確化し、世代間交流プログラムによって達成したいビジョンを定めることや、退職後の経験豊かな高齢者の適性に見合う活躍の場を保健・医療・福祉・教育が協働して創設すること、地域住民が効果を実感し、継続的に足を運ぶ魅力あるプログラム作りが課題と考えられた。

## 謝 辞

本研修は、聖路加看護大学「市民参画型ケアを推進する看護学若手研究者の育成」助成を受けて実施したものである。研修を快く受け入れてくださったPeter Whitehouse, Cathy Whitehouse, TISの皆様には深くお礼を申し上げます。

## 引用文献

- 1) 厚生労働省編 (2011) :平成 23 年度版厚生労働白書, 5-31.
- 2) 津村俊充編. (2002). 子どもの対人関係能力を育てる—子どもの心と体をひらく知識と技法. 教育開発研究所.
- 3) 亀井智子・糸井和佳・梶井文子・他. (2010). 都市部多世代交流型デイプログラム参加者の12か月間の効果に関する縦断的検証—Mixed methodsによる高齢者の心の健康と世代間交流の変化に焦点を当てて—. 老年看護学, 14 (1), 16-24.
- 4) 中野いく子. (2007). 世代間交流プログラムの実践と評価. 老年社会科学, 28 (4), 492-503.
- 5) 野中久美子・藤原佳典・他. (2011). 高齢者団体による世代間交流活動への支援策—世代間交流プログラム' "REPRINTS" より—. 日本世代間交流学会誌, 1 (1), 47-57.
- 6) The Intergenerational School. (2010) .The TIS Community Student demographics. 2008-2009 Annual Report, 8.
- 7) Whitehouse P. J., Bendezu E., FallCreek S. Whitehouse C. (2000) . Intergenerational community schools: A new practice for a new time. Educational Gerontology, 26, 761-770
- 8) George D.R, Singer M.E. (2011) . Intergenerational volunteering and quality of life for persons with mild to moderate dementia: Results from a 5-month intervention study in the united states.
- 9) Böstrom A.K. (2009) .Social capital in intergenerational meetings in compulsory schools in Sweden . Journal of intergenerational Relationships 7, 425-441.
- 10) 片岡万里・千浦淑子・森本恵・他. (2002). 世代間交流による痴呆老人の生活の質 (QOL) に対する効果の研究. 大和証券ヘルス財団研究業績集, 25, 168-173.